

第79回国民体育大会・第24回全国障害者スポーツ大会
滋賀県開催準備委員会
第1回輸送・交通専門委員会 議事録（概要）

1 日時

平成29年(2017年)12月21日(木) 10:00~11:45

2 場所

滋賀県大津合同庁舎7階 7-A会議室

3 出席委員（五十音順、敬称略）

一松郁夫、内田武志、江口圭一（代：豊田智隆）、大市博文、長達男（代：西川義満）、
片山彰一、澤本由紀伸、中島大介、中前 浩、中村道也、西田康浩、野村義明、
濱田隆久、道久 聡、三和啓司、四塚善弘（代：芝 久生）
（委員16名出席）（欠席 中島廣長）
（事務局：宇野事務局長、事務局職員3名）

4 配付資料

別添のとおり

5 会議概要

（1）委員長・副委員長の選出について

「専門委員会設置規程」第3条第2項に基づき委員互選により、委員長に野村義明委員が、副委員長に中島大介委員が選出された。

（2）会議の公開等について

※事務局から、会議の公開方針（案）、傍聴要領（案）を説明。原案どおり承認。

【質疑】なし

（3）説明・報告事項

※事務局から、
「(1)国民体育大会・全国障害者スポーツ大会の概要および輸送・交通に業務について」、「(2)第79回国民体育大会・第24回全国障害者スポーツ大会に係る開催準備経過について」、「(3)輸送・交通専門委員会の主な審議事項およびスケジュールについて」を説明。

【質疑】

（委員）

13ページの2023年にあるリハーサル大会とは何か。本大会前に滋賀県で同じような大会をされるということか。

(事務局)

リハーサル大会とは、国体・全スポの各競技会場においてそれぞれの競技ごとに行われる
予行演習的な大会のことである。全国大会よりは少し規模は小さい大会（近畿大会や大学選
手権等）が対象となることが多く、時期はバラバラで競技ごとに設定される。

(委員)

31ページの資料を見ていると、全スポの車椅子運搬のこともあるので、トラック協会にも
専門委員会に参画してもらう必要があるのではないか。

(事務局)

今回の専門委員会を立ち上げるにあたっては、参画いただいていないが、今後、必要に
応じて参画を依頼することも検討したい。

(委員)

先ほど説明のあった県内バス保有台数の462台というのは、路線バス含めての数という解
釈で良いか。

(委員)

滋賀県内全体の乗合、貸し切りバスを含めると約1000台。輸送の形態はいろいろある。乗
合バスを利用される方もいらっしゃるし、流用もある。462台というのは、純粋に貸し切り
車両だけの数なので、流用等があれば台数は多少変わるかもしれない。

(委員)

一般の日常的に使用している路線バスに影響が出るのかどうかという心配をしている。

(事務局)

そういった部分の対策をするためにも、来年度、輸送の基礎調査を行う予定である。借り
上げバスなど、県内で確保可能な車両の実数を押さえたうえで、実際の輸送計画にあてはめ
たときに、不足が生じる場合は他県からの借用ということも検討しなければならない。併せ
て、その過程で路線バスへの影響も検討する場面が出てくると考えている。

路線バスは、基本的には住民の方の日常的な交通手段なので、そこへの影響は極力おさ
えべきだが、部分的に低床バスなどを一部輸送の方に回すという検討が必要になるかもし
れず、そのような議論を当委員会で行っていただくことになる。

(委員)

大会の時期が9月～10月ということで、貸し切りバス業者にとってはシーズンに入ると
ころであり、その部分も加味しなければいけない。

(委員)

他県の実績にある車両台数は、市町の担当する部分は含まれず、県が担当する輸送の部
分に必要な台数という解釈で良いか。

(事務局)

会期中に市町で必要となるバスやタクシーの台数については、県が取りまとめ、全県
的な配車の調整は県が関与して行うことになる。したがって、他県の実績には、市町が
担当する部分の台数も含まれている。

市町が担当する競技会場と駅や宿舎を結ぶ輸送計画の具体の中身については、市町にお
任

せすることになる。

(委員)

タクシーの運用形態について、車両を確保した上で一日貸し切った形で運用するのか、タクシー会社に集合してもらって、それぞれのオーダーに応じて「行ってください」という形での確保なのか。

選手や役員の輸送も大事だが、一般来場者の輸送を考えると、特に全国障害者スポーツ大会は、全国から障害を持った方等が、一般来場者として集まってこられる可能性がある。そう考えると、選手等の輸送よりも一般来場者の輸送の方に配慮が必要ではないかと考える。一般観覧者は自由に来てくれと書いてあるが、そのあたりも留意して計画を策定される方が良いのではないかと考える。

(委員)

特に全スポに対して、障害のある一般の来場者については、タクシー協会としてもUD(ユニバーサルデザイン)タクシーをどんどんこれから導入していきたいと考えている。これは県にも支援をお願いしたい。

(事務局)

大変重要な点をご指摘いただいた。

スポーツのイベントなので、アスリートファーストという観点も大事であると考えてるが、観客への配慮ということも大事にしたい。

ご指摘いただいた内容も含め、計画を練り上げていく必要があると考える。

UDタクシーの導入について等、県としてどこまで支援できるかはわからないが、この大会をきっかけに滋賀県がユニバーサルデザイン、心のバリアフリーを含めたバリアフリーが前進するようなことを、国体・全スポのレガシーとして残していきたいと考える。今後、当専門委員会の中でも議論いただければ大変ありがたい。

(委員)

日常的な交通手段とのかね合いは最大の課題であり、この専門委員会の大前提となる最大の課題である。

今後、調査を進める中でみなさんと議論しながらしっかり進めていきたい。

(委員)

全国障害者スポーツ大会の各県選手団は、各県で手配したバスで宿舎に乗りつけ、そのバスはそこで帰ることになる。次の日からは開催県で手配したバスに乗って開・閉会式や各競技会場に向かうという形になり、宿舎から後の移動はすべて開催県にお願いせざるを得ない。滋賀県の場合、彦根駅から徒歩20分ということだが、道路は広くないし、一般の方も選手も移動される状態で20分かかるとなるとかなり大変である。彦根駅から会場までのシャトルバスを出してもらい、開・閉会式の会場であれば、宿舎からバスを出してもらいなど、できるだけ会場の近くで乗降できるよう配慮願いたい。

えひめ大会の開・閉会式会場は、雨の中、乗降場所から300mの坂道を歩くなど、車椅子の方も自力で押せないような困難な道だったと聞いている。彦根の主会場はフラットだと思うが、できる限り歩く時間は短縮してほしい。

閉会式の帰り、台風の接近で悪天候なうえに、夜遅い時間に、300mの坂を移動せざるをえなかった。特に車椅子の方には危険だと感じた。バス乗車までの足元の安全が確認できるような照明の設置をぜひお願いしたい。

また、開・閉会式会場からそれぞれの競技会場に移動する時が、バスの段取りをうまくや

らないと混雑するので大変である。滋賀県の場合、県内全域にJRが走っているが、最寄りの駅から競技会場までのシャトルバスを準備していただきたい。愛媛では、主会場からほかの競技会場に移動したくても交通手段がなく困った。現地のスタッフに手段を聞いても「私は知らない」「私はこの場だけの担当です」など、全体を知る方がほとんどいなかった。滋賀県の際には、少なくとも質問に対してしっかり回答できるようスタッフ間の情報の共有をお願いしたい。

(事務局)

彦根駅から主会場までは、徒歩圏内ではあるが、歩くには少し距離があると認識しており、シャトルバスの運行も含めアクセスについてはしっかり考えたい。全国から新幹線で滋賀に来られることも想定すると、米原駅からのシャトルバスということも想定できる。

主会場の中のバスの乗降場から実際に競技されるスタジアムまでのアクセスについて、例えば、最終的には木を植える想定の駐車場をフラットのままにしておいて、バスの転回場にするなども今後議論していく必要がある。式典等の委員会での議論になるかもしれないが、輸送・交通専門委員会からいただいた意見を反映できるように進めてまいりたい。

各競技会場地間のシャトルバスや、台数、運行状況なども今後の議論になる。スタッフの質という部分のご指摘もあったが、より良い「おもてなし」をめざすことは、大会を開催するうえで非常に大事なことと考えている。

(委員)

健常者ではなかなか気が付かないことが非常に多いことをいろんな場面を感じている。これから、議論を進めていく中で、個別の課題にきちっと対応していけるよう、皆様と勉強、議論していきたい。

(委員)

国の方でも鉄道車両、バス車両をノンステップ車両にするなどに取り組んでいる。費用がかかることで時間がかかっているが、心のバリアフリーに重きを置いてやっていこうと取り組んでいる。

和歌山国体におけるタクシー乗り場のアテンド配置のように、ハード面の議論に加えて、人の配置など、体制面のことも議論いただきたい。障害者の方から話を聞くと、観光地に出向いた際、神社仏閣などは、バリアフリーが進まない中であっても、そこで案内・介助してくださる方がいて、その方が親切にしてくれたことで良い思い出になるとおっしゃっていた。そういう部分にも配慮いただいて議論を進めていけば良いと思う。

(委員)

シャトルバスが多い日で505台、総合開会式だけでも200台近くになる。これらシャトルバスの待機所についても当委員会で検討するのか？

(事務局)

基本的な必要台数の確保については、当委員会で取り扱う。

待機所をどこに確保するかは、この委員会だけではなく、主会場整備の観点や、式典等他の委員会とも調整し、総合的に進める必要がある。ただし、台数など全体のボリューム(数)を押さえるという点については、当委員会の重要な検討事項であると考えている。

(委員)

輸送計画を立てるにあたっての基本的な考え方について、会場間、施設間を鉄道、バス、タクシー等とあるが、徒歩圏内については、「徒歩」も輸送手段と考えてはどうか。歩いて

20分が近い、遠いという感覚の違いはあるが、『20分くらいなら徒歩で行ってください』、ただ、その代わり安心して歩いて行けるように、道路管理者や警察の協力も得て、車線制限をするなどの配慮ができる可能性もある。あまり無理をしない形での「徒歩」、そして滋賀県が頑張っているビワイチのこともあるので、「自転車（レンタサイクル）」も輸送ツールに含めてはどうか。

（事務局）

実際に、乗降場よりも最寄り駅の方が近かった…という事例もあった、と聞く。選手、監督、観客など来られる方にとって何が良いのかを総合的に見極めて計画を進めたい。また、自転車を輸送ツールに含めるというご提案も含め今後の検討課題としたい。

（4） 審議事項

※事務局から、輸送・交通基本方針（案）を説明。原案どおり承認。

【質疑】なし

（5） その他

※事務局から、基礎調査の実施について、委員の任期についてを説明。

【質疑】なし